

# 巻頭のご挨拶

一般社団法人 北海道林産技術普及協会  
会長 高橋 範行



皆様、新年明けましておめでとうございます。  
平成26(2014)年の新春を会員皆様とご一緒にお慶び申し上げます。  
また日頃より当協会の運営に対し、ご指導ご協力を頂き誠に有難うございます。

昨年は当協会60周年の節目にあたり、4月19日の総会時に行った「60周年記念講演」は、元北海道大学総長の丹保憲仁さまを講師に迎え、グローバルな大変有意義なお話をお聞きすることができました。また60周年を祝う式典、祝賀会も多数の御来賓のご臨席を賜り無事終わることができました。改めて会員皆様に厚くお礼申し上げます。

この節目の年に、前会長の高橋秀樹氏より、林産技術普及協会の会長として重責を担うことになり、あっという間に一年が経過いたしました。若輩浅学の会長ですが、皆様のご協力をいただき伝統ある当会を林産試験場の応援団として盛り立てていく所存ですので、宜しくお願ひいたします。

今年の干支は午年です。午年の中でも、甲午(きのえうま)で騎馬、競馬といわれ華やかな生活を追う馬で、飛ぶ鳥を落とす程の勢いがあるとのこと。小生も、昭和29年生まれの午年で、今年でとうとう還暦を迎えることになりました。この勢いにあやかりたいと思います。

今年4月より消費税が8%にアップになり、年明けから消費税アップを見越した仮需が出る見込みです。アベノミクスの効果が大都市を中心に確実に表面化しており、資材のアップ、職人の不足が顕著となっていることから、前半は木材業界においても忙しく、また騒がしい前半戦となるのではないかと思います。消費税後の反動は多少はあるにせよ、大都市圏では2020年の東京オリンピックの招致に成功したことにより都市圏の再開が期待でき、反動は、予想を下回ると考えております。ただ中央と地方の格差が更に拡大することは、日本にとって良いことなのか甚だ疑問が残るところです。

昨年は、国産材復権元年と言っても過言ではない年でした。輸入材が円高を背景に大量に輸入されていた数年前と比較して、円安が20%以上も進行したために、国産材との値差が縮まったことと、伐採期を迎えた植林木を利用した各種木材製品の用途開発が軌道に乗ってきたためです。道内の植林木としては、カラマツの安定需要の確立、これから伐採期を迎えるトドマツが今脚光を浴びてきており、林産試験場の役割がいよいよ重要となる年と思っております。海外類似商品の代替として、製造コストを重視した道産材の安定供給システムの確立こそが、地産地消はもとより、国産材復権の時代に国内に移出できる道産材として、その地位を確立することを祈念しているところです。

今年の通常総会は4月24日(木)を予定しており、会員より異業種の講演を企画してほしいとの要望に応えるために、トヨタ自動車でハイブリッドエンジンの開発に携わり、『ハイブリッドの父』と言われる八重樫武久さんに講演を依頼しました。演題を『ハイブリッド自動車プリウスの開発と地球環境の安全・安心』と予定しております。今では常識化したハイブリッド自動車の同システムの開発の秘話は、異業種の我々が身を置く木材製品の技術開発に参考になると思っております。ぜひご期待ください。

今年も、『北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場』と民間企業の架け橋として、木材普及活動をさらに活発化させる所存でございます。  
本年も皆様のご支援を宜しくお願ひ申し上げます。